

宮古民報

2017.11.26

第1542号

日本共産党
宮古地区委員会
市内宮町4-6-49
電話62-5808
FAX 62-3897

しんぶん赤旗
日刊紙3497円
日曜版 823円

議会報告会

5班体制、15会場で終了

議会改革の一環として実施

20日から始まった議会報告会(意見交換会)は22日で終了しました。報告会は議会基本条例により、議会と住民との協議を通じて市政への反映や議会の政策提言の具体化が目的です。

第12回目となる同報告会からは5人〜6人の議員が5つの班に分かれて行われました。議会からの報告は9月定例会の様子を掲載した議会報(羅針盤)と、改選後から実施予定の議会改革内容が中心でした。

1億3千万円節約

ある班では来年、5月から議員定数が28人から22人に、常任委員会も4



昨年度の報告会の様子 高浜地区

各班に共通して出たのは地域要求です。参加者が霧囲気が重くなるかもと断って述べたのが「津波震災遺構(たろう観光

田老も賛否が二分

意見もでましたが、議会が何をしているのか分かんなく、必要無いとの意見も出ました。

参加者確保が課題

津波、台風と浸水被害の続出では三陸道路などの整備で排水路の不備や

決算審査

教民 中島清吾議員

乳児の聴覚検査実施を



解体・廃棄された仮設保育所

【答】保護開始の要件等に変化は無い。保護には該当しないが、将来の不安を訴え、相談するケースなどもあり、この件数になった。

○乳児健康診査

【問】乳児の聴覚検査事業を行う予定はあるか。早期発見で、発生等を劇的に改善できるとの報告もあるようだ。

費用助成を検討

【答】遠野市、奥州市は、今年度から乳児の難聴検査に自治体が助成している。聴覚検査は任意検査で個人負担は1万円前後だ。今後、費用助成について前向きに検討して行きたい。

○建材の再利用は

【問】撤去後の仮設保育所(田老)の建材を再利用はしないのか。

【答】本体は解体後に廃棄し、一部の備品のみ再利用している。

○生活保護事業

【問】昨年比べて、相談件数が増えているのに、開始件数が減っているのはなぜか。基準が厳しくなったのか。

山林資源の保全等管理の不十分さを指摘する意見も出ました。報告会への住民の参加状況は5人から15人と会場によってバラツキが大きく、集約途上ですが、

盛況とは言えない状況が続きます。参加者をどう広げるか、意見交換すべき「市政課題」の設定など「議会基本条例」に定めた目的を達成するためにはさらなる改善が議会

に求められています。

6日〜12月議会 一般質問は15日

12月議会は6日から21日まで16日間の日程で行われる予定です。

陳情・請願および一般質問通告の締切は今月末日までのほか、一般質問は15日から20日(土日を除く)の4日間の日程です。同質問は午前10時からの本会議で時間的には最大で6人が登壇できますが、議連では質問通告者の人数によっては、会期を調整することで合意しています。

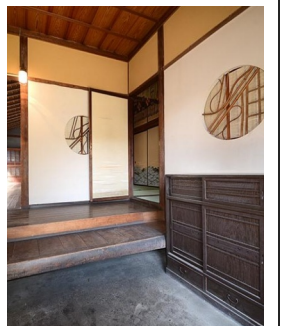
以前と変わらない計画

22日(水)、総務常任委員会は市から田老総合事務所の整備計画の説明を受けました。同事務所は耐震性に欠け、移転新築の方針ですが、前回同様、宮古信用金庫田老支店の店舗相当部分を市で新庁舎内に整備する内容です。この日、市が

議会に理解を求めるための説明は、「銀行」と「信金」の違いだけでした。市は信金は会員出資の非営利の協働組織だから、許されるの考えですが、総務委員会では理由がその場しのぎで納得できず、市に再考を求める判断です。

今年、宝島社の「住みたい田舎ランキング」で、若者・子育て世代の両部門で1位に輝いた自治体が栃木市▼本市と比べ、田舎というよりは都市のイメージ。ただし、広い農地が広がる。鍵は都心へ電車まで1時間という移動距離。移住を条件に特急購入券の通勤者に10月から月1万円を補助▼反応は予想を超え、予算が枯渇とか。古民家を改修、「蔵の街やどりの家」は移住体験施設。宿泊費は何人でも一泊2千円が目玉▼開業から17か月間で38組、98名が利用し、そのうち4組が移住を完了している。他にも「やどかりの家」を取り入れる自治体が相次ぐ。利用しようにも予約で満杯▼市では移住の選択先になるのであれば安い宣伝費との考え。2軒目も準備中。地の利を生かした政策には圧倒。人口減少対策の優等生と言える。

漁火



今年、宝島社の「住みたい田舎ランキング」で、若者・子育て世代の両部門で1位に輝いた自治体が栃木市▼本市と比べ、田舎というよりは都市のイメージ。ただし、広い農地が広がる。鍵は都心へ電車まで1時間という移動距離。移住を条件に特急購入券の通勤者に10月から月1万円を補助▼反応は予想を超え、予算が枯渇とか。古民家を改修、「蔵の街やどりの家」は移住体験施設。宿泊費は何人でも一泊2千円が目玉▼開業から17か月間で38組、98名が利用し、そのうち4組が移住を完了している。他にも「やどかりの家」を取り入れる自治体が相次ぐ。利用しようにも予約で満杯▼市では移住の選択先になるのであれば安い宣伝費との考え。2軒目も準備中。地の利を生かした政策には圧倒。人口減少対策の優等生と言える。